

もり
「杜くらし」とは

仙台藩初代藩主 伊達政宗公は、家臣たちに300坪ほどの土地を与え、そこに柿や栗、お茶などたくさんの実用的な木を植え、飢餓に備えるよう指導しました。

それが「杜の都仙台」の起源です。

つまり“杜”とは、山にある“森”ではなく、その街に暮らす人々が協力し合い育む、身近で、豊かな緑のことなのです。

この「杜くらしプロジェクト」を通して、

仙台・宮城を本来の「杜の都」に戻していこう。

そして、建築の力で、“人間的な”暮らしを取り戻し、失いつつある大切なものを呼び覚まそう。

例えば、

暮らしの喜びや、生きる力。

日本人ならではの、美意識。

人と人が助け合う、地域のつながり。

今は、何をするにも、ボタンひとつで済んでしまう時代。

そんな中でも、五感を研ぎ澄ませ、手を動かし、自分の頭で考える。

そうして得られる知恵や経験を、大切にしたい、そう思うのです。

ここで育った子どもたちは、どんな大人になるのだろう。

「杜の小径」では、どんな関わり合いが生まれるのだろう。

私たちは、人が暮らしをつくり、暮らしが人を育むのだと考えます。

ここでの出会いが、暮らしを見つめなおすきっかけになれば幸いです。



呼 び 覚 ま す 建 築

株式会社建築工房零